



乾杯！この瞬間が楽しいと話すメンバーたち

ハンバーグに挑戦 男の料理教室

男の料理教室が十二月十五日開催され十五人のつわものが集まつた。今回も大島裕子・中尾香代先生のご指導のもと、ハンバーグ・かぶの浅漬け・イカとねぎの酢みそ和え・鶏鍋の四品を手際よく調理した。

今回は段取りよく二班に分かれて調理の準備に入つたため、五時半から始まつたが七時には完了した。しかし一番、苦労したのは「ハンバーグ」作りだつたようだ。インスタントでもな

く冷凍食品でもなく、合いびき肉とたまねぎのミンチを練るところから始まるのだ。男性はほとんど「経験」がなく、ミンチのネタを丸めて両手でキャツチボールするようにして、中の空気を抜く工程が一苦労。だがそこは「男性」。キャツチボールのようにと聞いて「童心」をすぐつたのか途中からは楽しそくに上手に丸めた。

フライパンで焼く作業もまた大変。火の強さ、焼く時間は全くの未経験。マニュアルには「弱めの中火で焼き色がつくまで四、五分」となつてゐるが、やや火が強かつたのか、おこげのハンバーグとなつたがこれも愛嬌。

こうして全品仕上がり、待望の「試食タイム」。これが楽しみという人がほとんどで、初参加の三名も含めて、今回十五名からは宴会のように「和気あいあい」と政治に、公民館活動に、ふれあい祭りの話題と会話の途切れることなかつた。

(寄稿者・福船 和田真二)

最高に楽しかった ふれあいボウリング大会

十一月二十八日に開催された「岩村ふれあいボウリング大会」に参加させていただきました。年に一回の大イベント(?)にしては参加者が少なく少し寂しい気がしましたが、「出るからには優勝したい」の気持ちで参加しました。私は自身最近ボウリングをやる機会がなく、年に一度この大会へ参加させていただくのみがなく、年に一度ボウリングの精銳ばかりで私の出る幕はなく、多分いつも調子でハンディをもらつても中間程度の順位かなと思ひきや、なんと澤山のハンディをいただき見事優勝。最初の思いが正夢となつてしましました。

今だから言えるのですが、当日は、普段の行いが悪いのか風邪をひき微熱の状態で参加し、腕に力が入らず、いつも十六ポンド程度のボールを使うのですが、持つて

みると重く感じたため結局十三ボンドで挑戦することになりました。しかし、練習ボールで早くも疲れました。周囲にはボウリングの精銳ばかりで私の出る幕はなく、多分いつも調子でハンディをもらつても中間程度の順位かなと思いつつ、まるで別人が投げているような点数となりました。そして優勝となり、賞品もいただいた後更にこの「岩村ふれあい便り」にも投稿する権利を与えていただきました。(嬉しいやら、悲しいやら)

この「岩村ふれあいボウリング大会」には毎年参加させてもらつていますが、本当に和気あいあいで楽しく、岩村地区のふれあいの場として最高なイベントだと思

(寄稿者・福船 田所秀二)



紅葉がきれいだった岩本寺



沈下橋から「最後の清流」を眺める

万十川で育てた「うなぎ」を食べたところで、「第二・三島沈下橋」と「芽吹手洗下橋」をウオーキングしました。初めて渡る沈下橋でしたが、すばらしい眺めでした。この橋を水が越えたりしばらく境内でくつろぎました。お昼はうなぎ専門店「うなきち」というお店で四

十一月二十日、歩こう会では、四十万方面へ散策に出かけました。お天気にも恵まれ暖かな秋の一日となりました。ふれあいセンターから高速道を通つて須崎まで走り「かわうその里」や「あぐり窪川」など

の道の駅に立ち寄りました。私も食べ栗アイスはすがに名

りたが、栗アイスは知れていました。寒いと言いながらもアイスクリークを食べている人たちと一緒に私も食べました。沈敷きつめたようでした。次々とやつてくるお遍路さんを見送りしばらく境内でくつろぎました。お昼はうなぎ専門店「うなきち」というお店で四

橋で、沈下橋から「最後の清流」を眺めました。この橋を水が越えたり、川辺も秋をしつくりと感じさせてくれて、絵に描いたような心和むひとときでした。この橋を水が越えたり、川辺も秋をしつくりと感じさせてくれて、絵に描いたような心和むひとときでした。この橋を水が越えたり、川辺も秋をしつくりと感じさせてくれて、絵に描いたような心和むひとときでした。この橋を水が越えたり、川辺も秋をしつくりと感じさせてくれて、絵に描いたような心和むひとときでした。この橋を水が越えたり、川辺も秋をしつくりと感じさせてくれて、絵に描いたような心和むひとときでした。この橋を水が越えたり、川辺も秋をしつくりと感じさせてくれて、絵に描いたような心和むひとときでした。

それから「道の駅四十万」とおわに寄り、最後に「久礼大正市場」に寄りました。スケジュールがゆつたりしていたことと、道も混雑せず順調に帰途につき明るいうちに家路につく事が出来ました。心も体もリフレッシュした楽しい一日でした。

(寄稿者・包末 安松千枝)

秋の歩こう会は四十万へ